

地方独立行政法人那覇市立病院

平成29事業年度業務実績評価書

平成30年 8月

那 覇 市 長

様式 1 - 1 - 1 年度評価 評価の概要

1. 評価対象に関する事項		
法人名	地方独立行政法人 那覇市立病院	
評価対象事業年度	年度評価	平成 29 年度 (第 2 期)
	中期目標期間	平成 28 ~ 31 年度

2. 評価の実施者に関する事項			
那覇市長			
法人所管部局	健康部	担当課	保健総務課

3. 評価の実施に関する事項
法人からのヒヤリング及び評価委員会からの意見聴取を実施した。

4. その他評価に関する重要事項
特になし

1. 全体の評定	
評定	全体として中期目標・中期計画の達成に向けて計画通り進んでいる
評定に至った理由	<p>地方独立行政法人那覇市立病院の年度評価実施要領の評価方法に基づき、大項目の1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置は37項目中評価 以上が37項目であり、「A評価」、2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置は6項目全てが評価 以上であったため、「A評価」、3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置は8項目全てが評価 以上であったため、「A評価」であった。以上の結果を踏まえ、全体としての評価は上記のとおりとした。 那覇市立病院は、これまでも収支改善努力を行っている。今後、病院の建替えを協同で取り組んでいくためにも改善の見える化を進めていただきたい。</p>
2. 法人全体に対する評価	
法人全体の評価	<p>第3期中期計画の第2期目となる平成29年度は、中期目標及び中期計画の実現にむけ、年度計画に沿って策定した各部門別の実施計画に基づき業務を実施した。</p> <p>「市立病院としての役割の発揮」について、救急医療については365日24時間体制で救急患者の受け入れをおこなった。救急患者数は42,640人で昨年度と比較し380人の減少であったが、急病センターからの入院患者数、救急搬送数は前年度を上回る結果となった。2階北病棟に救急からの入院専用病床10床を確保する運用は今年度も継続し、急病センター満床による搬送お断り件数の減少に繋がった。また、小児医療の充実として、当院小児科医師、近隣の小児科開業医、琉球大学小児科の応援を受け365日24時間体制で小児科医が常駐する救急医療を継続した。地域周産期母子医療センターとして、地域医療機関と連携し小児・周産期医療を提供することで地域医療に貢献した。</p> <p>「高度医療の充実」として、CT件数、MRI件数、RI件数は前年度を上回る結果となった。また、内視鏡検査強化の結果、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）の件数は増加し目標を31件上回る結果であった。</p> <p>「高度医療機器の更新・整備」については、医療機能の向上を図るため、MRIの次年度早期更新に向け、機種選定に取り組んだ。</p> <p>「地域がん診療連携拠点病院としての機能の充実」として、外来化学療法、放射線療法のさらなる充実を図った。また、がんフォーラムの開催やがん診療に従事する医師等に対する研修会を開催した。</p> <p>「地域医療支援病院として地域完結型医療を目指し、地域での役割分担、機能分化をより一層推進する」については、紹介率向上への取り組みとして、地域医療連携交流会や他医療機関への広報実施をおこなった。紹介率及び逆紹介率は前年度より向上し、目標値であった紹介率65%、逆紹介率40%を上回る結果であった。</p> <p>「患者・来院者のアメニティ」の向上として、駐車場周囲の緑化に取り組み患者や利用者より好評を得た。また、外国人旅行者の受診に対応するため、多言語通訳システム全病棟で使用できるよう、Wi-Fi環境を整備し対応端末も増設した。</p> <p>決算状況について、平成27年度の赤字決算を受け、平成28年度から引き続き取り組んできた収支改善計画「屋良ベクトル」を病院全体で実施したことにより、平成29年度の決算は総収益13,581,307,937円（前年比4.6%増）総費用13,391,578,575円（前年比3.1%増）純利益189,729,362円となり3期ぶりに黒字へと転換した。</p>
全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項	特になし

3. 評価委員会の全体的な意見	
<p>那覇市立病院の使命である安心・安全な医療や高度医療を提供するために、救急医療体制の充実・強化、小児・周産期医療の充実、高度医療の充実、地域がん診療連携拠点病院としての機能の充実、地域医療支援病院として地域完結型医療を目指し、地域での役割分担、機能分化をより一層推進する、という役割において高い実績を上げている。</p> <p>経営面においては、収支改善計画の取り組みの結果、収支が改善され3期ぶりに黒字へと転換したことは大いに評価できる。主な要因としては、救急受け入れ態勢の強化を図ったこと等による入院診療単価の増加、病床稼働率及び平均在院日数を適切に維持したこと等である。</p> <p>那覇市立病院の自己評価については、各項目において全体的に妥当である。ただし(6)地域がん診療連携拠点病院としての機能の充実の項目については、自己評価 に対し、評価 へ段階を上げることが妥当であると判断した。</p> <p>今後も那覇市立病院が業務を継続し、その使命を果たすため、老朽化している病院の建替えについての取り組みを強化していただきたい。</p>	

4. 項目別評価における主要な課題、改善事項など	
項目別評価で指摘した課題、改善事項	該当なし
その他改善事項	該当なし
那覇市長による改善命令を検討すべき事項	該当なし

5. その他事項	
監事等からの意見	<p>【理事長からの意見】</p> <p>当院は、地方独立行政法人化して10年が経過した。24時間救急医療、小児・周産期医療、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院などの役割をはじめ、地域の基幹病院として市民に安心を与え、市民に選ばれる病院を目指し邁進してきた。</p> <p>平成20年度の地方独立行政法人移行後収益を伸ばしてきた。その一方で年々費用の伸び率が収益を上回り、平成26年度は収益と費用が均衡、平成27年度は赤字決算となった。この傾向は、当院が経営体として赤字構造になっていることを示すものであった。平成28年度に病院運営及び経営の改善へ病院全体で取り組み、当院のこれまでの収支構造を分析し、各部門において収益改善策を示し「収益改善実施計画」を策定し実践に移してきた。平成28年度は大幅に損益の圧縮につながった。平成29年度も収益改善を継続し、その結果、平成29年度は収支が改善され黒字決算となった。特に職員の経営への意識向上が大きく関与したのではないかと考えている。</p> <p>今後の病院経営は診療報酬の伸び悩み、働き方改革への対応で厳しくなると言われている。特に当院は建築費が高騰期に病院建替を控えており、更なる経営改善が求められる。このことより、平成29年度同様に次年度以降も収益改善への取り組みをより一層進めていく必要がある。</p> <p>最後に、医療の提供、臨床研究、人材育成、医療の質向上と同時に経営の質の向上、地域や社会に貢献していくため、引き続き課題の解決、健全な病院経営に取り組んでまいりたい。</p>
その他特記事項	特になし

様式 1 - 1 - 3 年度評価 項目別評価総括表

中期計画（中期目標）	年度評価				項目別 調書	備考
	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度		
第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
	A	A			1 - 1	
					1 - 2	
					1 - 3	
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置						
	C	A			2 - 1	
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置						
	C	A			3 - 1	

中期計画（中期目標）	年度評価				項目別 調書	備考
	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度		
第4 予算（人件費の見積りを含む）収支計画及び資金計画						
財務諸表及び決算報告書を参照	-	-	-	-	-	
第5 短期借入金の限度額						
	-	-	-	-	-	
第6 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画						
	-	-	-	-	-	
第7 剰余金の使途						
	-	-	-	-	-	
第8 料金に関する事項						
	-	-	-	-	-	
第9 その他業務運営に関する重要事項						
	-	-	-	-	-	
第10 那覇市地方独立行政法人法施行規則(平成20年那覇市規則第4号)第5条で定める事項						
	-	-	-	-	-	

*重要度を「高」と設定している項目については、各評語の横に「 」を付す。

難易度を「高」と設定している項目については、各評語に下線を引く

様式1-1-4-1 年度評価 項目別評定調書（市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置）

1. 当項目に関する情報			
1-1	市立病院としての役割の発揮		
業務に関連する政策・施策	(1) 救急医療体制の充実・強化 (2) 小児・周産期医療の充実 (3) 災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療支援・協力	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	-
当該項目の重要度、難易度	ウエイト付けは各項に記載	関連する政策評価・行政事業レビュー	-

2. 主要な経年データ												
主要なアウトプット（アウトカム）情報							主要なインプット情報					
	指標	達成目標	（参考） 中期計画 平成26 年度実績	28年度	29年度	30年度	31年度	指標	28年度	29年度	30年度	31年度
救急医療体制の充実・強化	急病センター受診患者数		44,391人	43,020人	42,640人				-	-		
	うち入院患者数		4,518人	4,338人	4,989人				-	-		
	うち救急車受入数		3,879人	4,650人	4,954人				-	-		
	救急車の受入率		90.1%	95.1%	94.7%				-	-		
小児・周産期医療の充実	小児外来患者		39,197人	37,647人	38,446人				-	-		
	小児入院患者		17,598人	18,945人	19,580人				-	-		
	小児救急患者数		23,525人	19,719人	19,429人				-	-		

	うち入院患者数		1,430 人	1,226 人	1,175 人				-	-		
	NICU 入院患者数		2,012 人	4,013 人	3,461 人				-	-		
	分娩件数		384 件	422 件	361 件				-	-		
	うち帝王切開数		165 件	187 件	170 件				-	-		
	ハイリスク妊娠患者数		102 人	111 人	100 人				-	-		
	ハイリスク分娩患者数		60 人	65 人	81 人				-	-		
災害医療 及び感染症医療 その他の緊急時における医療 支援・協力	災害訓練回数		5 回	5 回	3 回				-	-		
	災害訓練参加者数		47 人	48 人	12 人				-	-		
	災害研修会回数		2 回	5 回	4 回				-	-		
	災害研修会参加者数		7 人	16 人	17 人				-	-		
	被災地等への派遣件数		0 件	0 件	0 件				-	-		

小項目の評価段階

...年度計画を大幅に上回って実施している。

...年度計画を上回って実施している。

...年度計画を順調に実施している。

...年度計画を十分に実施できていない。

...年度計画を大幅に下回っている。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価																										
中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価			市長による評価																				
			業務実績		自己評価																					
中期目標 第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 市立病院は、市民が求める安心・安全な医療や高度医療を提供するため地域医療の確保と医療の質の向上等に努め、市民の健康の維持・増進に貢献する病院運営に努めること。																										
第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	第1 同左	-	-	-	-	-																				
1 市立病院としての役割の発揮 (1) 救急医療体制の充実・強化 地域医療に貢献するため、365日24時間救急医療体制の維持・充実を図ること。また、救急搬送の受け入れをスムーズに行えるよう消防や関係機関と連携を強化すること。																										
(1) 1 市立病院としての役割の発揮 (1) 救急医療体制の充実・強化 ア 地域の医療機関等と連携して、365日24時間救急医療体制の維持・充実を図る。 イ 消防や関係機関との連携を密にして「たらい回しのない救急医療」に貢献する。	1 同左 (1) 同左 ア 同左 イ 同左	(29年度の具体的な取り組み) 円滑なベッドコントロールを行い、救急車の受入率を増加させる。休日夜間の緊急入院がスムーズに行える体制を継続する。	365日24時間救急医療体制を維持し、前年度より設置している2階北病棟の急病からの入院専用病床を引き続き確保し、急病からの入院を要する患者を速やかに入院させる体制を継続した。 実績については、対前年比の救急患者数は380人減少であった。救急車受入数304人増加であった。入院を要する重症患者も増加しており、入院患者数651人と前年を上回る結果であった (救急医療の関連指標)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>43,020人</td> <td>42,640人</td> <td>47,000人</td> </tr> <tr> <td>うち入院患者数</td> <td>4,338人</td> <td>4,989人</td> <td>増加させる</td> </tr> <tr> <td>うち救急車受入数</td> <td>4,650人</td> <td>4,954人</td> <td>増加させる</td> </tr> <tr> <td>救急車の受入率</td> <td>95.1%</td> <td>94.7%</td> <td>93.5%以上</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成29年度目標	救急患者数	43,020人	42,640人	47,000人	うち入院患者数	4,338人	4,989人	増加させる	うち救急車受入数	4,650人	4,954人	増加させる	救急車の受入率	95.1%	94.7%	93.5%以上	ウイ 2 評価	評価： (評価委員からの意見) 引き続き2階北病棟に10床確保することで、365日24時間救急医療体制の円滑な運用を維持し、入院を要する重傷患者が増加した。「たらい回しのない救急医療」への貢献を十分に果たしていると評価できる。
指標名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成29年度目標																							
救急患者数	43,020人	42,640人	47,000人																							
うち入院患者数	4,338人	4,989人	増加させる																							
うち救急車受入数	4,650人	4,954人	増加させる																							
救急車の受入率	95.1%	94.7%	93.5%以上																							
(2) 小児・周産期医療の充実 地域医療機関との連携に基づき小児・周産期医療を担うとともに、安心して子どもを産み、かつ、育てられるよう医療の提供を確保すること。																										

(2)	(2)小児・周産期医療の充実 地域周産期母子医療センターとして、地域医療機関との連携に基づき小児・周産期医療を担うとともに、安心して子どもを産み、かつ育てられるよう医療の提供を確保する。	(2) 同左	(29年度の具体的な取り組み) 産婦人科医と後期研修医(産科医)を確保して母体搬送の受入を強化する。	<p>当院の小児科医師を主体とし、近隣の小児科開業医、琉球大学小児科の応援を受け、365日24時間体制で救急患者を受け入れた。小児科医が常駐することで、小児救急医療に貢献することが出来た。</p> <p>地域周産期母子医療センターとして、地域医療機関と連携し小児・周産期医療を担い、安心して子どもを産み、かつ育てられるよう医療の提供を確保した。近隣に産科クリニックができた影響もあり分娩件数は減少する結果であったが、ハイリスク妊娠患者数、ハイリスク分娩患者数は前年と同程度の結果であった</p> <p>(小児・周産期医療の関連指標)</p> <table border="1" data-bbox="801 531 1574 1002"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児外来患者数</td> <td>37,647人</td> <td>38,446人</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>小児入院患者数</td> <td>18,945人</td> <td>19,580人</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>小児救急患者数</td> <td>19,719人</td> <td>19,429人</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>うち入院患者数</td> <td>1,226人</td> <td>1,175人</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>NICU入院患者数</td> <td>4,013人</td> <td>3,461人</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>分娩件数</td> <td>422件</td> <td>361件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>うち帝王切開数</td> <td>187件</td> <td>170件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>ハイリスク妊娠患者数</td> <td>111人</td> <td>100人</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>ハイリスク分娩患者数</td> <td>65人</td> <td>81人</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成29年度目標	小児外来患者数	37,647人	38,446人	前年度並みを維持する	小児入院患者数	18,945人	19,580人	前年度並みを維持する	小児救急患者数	19,719人	19,429人	前年度並みを維持する	うち入院患者数	1,226人	1,175人	前年度並みを維持する	NICU入院患者数	4,013人	3,461人	前年度並みを維持する	分娩件数	422件	361件	前年度並みを維持する	うち帝王切開数	187件	170件	前年度並みを維持する	ハイリスク妊娠患者数	111人	100人	前年度並みを維持する	ハイリスク分娩患者数	65人	81人	前年度並みを維持する	㊦ 2 評価	評価： (評価委員からの意見) 常時小児科医を配置した救急体制を維持した。小児外来患者数増、及び、NICU病床は90%程度の高い稼働率を維持し、小児・周産期医療の充実に貢献していると評価できる。
指標名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成29年度目標																																											
小児外来患者数	37,647人	38,446人	前年度並みを維持する																																											
小児入院患者数	18,945人	19,580人	前年度並みを維持する																																											
小児救急患者数	19,719人	19,429人	前年度並みを維持する																																											
うち入院患者数	1,226人	1,175人	前年度並みを維持する																																											
NICU入院患者数	4,013人	3,461人	前年度並みを維持する																																											
分娩件数	422件	361件	前年度並みを維持する																																											
うち帝王切開数	187件	170件	前年度並みを維持する																																											
ハイリスク妊娠患者数	111人	100人	前年度並みを維持する																																											
ハイリスク分娩患者数	65人	81人	前年度並みを維持する																																											
<p>(3)災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療支援・協力 災害時における病院機能を維持し、緊急時に対応し得る医療のリーダーとして迅速かつ適切な初動対応に備えるための体制づくりや訓練を行うこと。 災害時やその他の緊急時において医療拠点としての役割を担うとともに、那覇市の地域防災計画、新型インフルエンザ等の健康危機管理対策に適切に対応すること。 また、那覇市保健所と連携し、感染症対策などに協力すること。 さらに、他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、災害派遣医療チームを派遣するなど、医療救護活動の支援に努めること。</p>																																														
(3)	(3)災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療支援・協力 災害時等には、医療拠点としての役	(3)同左	(29年度の具体的な取り組み) 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、その業務に関	<p>新型インフルエンザ等対策に関する指定地方公共機関としての業務計画を平成28年12月に作成済み。平成29年度改正等はおこなわず業務計画を継続した。</p> <p>DMATを組織し、訓練、研修会等へ積極的に参加した。平成29年度的那覇市総合防災訓練が台風接近のため中止となり、災害訓練回数、災害訓練参加者数は目標に未達であった。DMAT隊員の参加した災害研修会回数(4回)、災研修参加者数(17人)は目標を達成した。</p>	㊦ 1 評価	評価：																																								

<p>割を担うとともに、那覇市の地域防災計画や新型インフルエンザ等の健康危機管理対策に適切に対応する。</p> <p>また、那覇市保健所と連携し、感染症対策などに協力する。そのために普段から災害派遣医療チーム(DMAT)を組織し、訓練、研修会等へ積極的に参加する。</p> <p>さらに他の自治体等において大規模災害が発生した場合は、災害派遣医療チームを派遣するなど、医療救援活動の支援に努める。</p>		<p>し、新型インフルエンザ等対策に関する指定地方公共機関としての業務計画を作成する。</p>	<p>(災害医療の関連指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> <th>平成 29 年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>災害訓練回数</td> <td>5 回</td> <td>3 回</td> <td>5 回</td> </tr> <tr> <td>災害訓練参加者数</td> <td>48 人</td> <td>12 人</td> <td>50 人以上</td> </tr> <tr> <td>災害研修会回数</td> <td>5 回</td> <td>4 回</td> <td>2 回</td> </tr> <tr> <td>災害研修会参加者数</td> <td>16 人</td> <td>17 人</td> <td>7 人</td> </tr> <tr> <td>被災地等への派遣件数</td> <td>1 件</td> <td>0 件</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標	災害訓練回数	5 回	3 回	5 回	災害訓練参加者数	48 人	12 人	50 人以上	災害研修会回数	5 回	4 回	2 回	災害研修会参加者数	16 人	17 人	7 人	被災地等への派遣件数	1 件	0 件	-		
指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標																										
災害訓練回数	5 回	3 回	5 回																										
災害訓練参加者数	48 人	12 人	50 人以上																										
災害研修会回数	5 回	4 回	2 回																										
災害研修会参加者数	16 人	17 人	7 人																										
被災地等への派遣件数	1 件	0 件	-																										

1. 当項目に関する情報			
1 - 2	診療機能の充実		
業務に関連する政策・施策	<p>(1) 高度医療の充実 高度医療の充実 医療機器の計画的な更新・整備</p> <p>(2) がん医療体制の強化 地域がん診療連携拠点病院としての機能の充実 がんに関する情報の市民への普及・啓発</p> <p>(3) 地域医療機関との連携推進・強化 地域医療機関との連携推進・強化</p> <p>(4) 市の施策との連携等 保健・福祉行政との連携 在宅医療への支援及び在宅医療との連携強化 市民への情報の提供・発信</p> <p>(5) 専門性及び医療技術の向上 専門性及び医療技術の向上 医療の標準化と最適な医療の提供</p> <p>(6) 安心・安全で質の高い医療の提供 医療安全対策の徹底 患者中心の医療の実践 科学的な根拠に基づく医療（EBM）の推進及び医療の標準化と最適な医療の提供 法令・行動規範の順守（コンプライアンス）</p>	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	-
当該項目の重要度、難易度	ウエイト付けは各項に記載	関連する政策評価・行政事業レビュー	-

2. 主要な経年データ												
	主要なアウトプット（アウトカム）情報							主要なインプット情報				
	指標	達成目標	（参考） 中期計画平成26年度実績	28年度	29年度	30年度	31年度	指標	28年度	29年度	30年度	31年度
手術ナビゲーションシステム実施件数	耳鼻咽喉科		-	19件	21件				-	-		
	脳神経外科		-	5件	7件				-	-		
	整形外科		-	-	18件				-	-		
レーザー破碎装置を用いた施設実績件数			-	33件	40件				-	-		
高度医療の関連指標	CT件数		15,462件	15,243件	16,527件				-	-		
	MRI件数		6,644件	6,301件	6,510件				-	-		
	RI件数		879件	842件	873件				-	-		
	心臓カテーテル検査件数		500件	409件	391件				-	-		
	経皮的冠動脈形成術（PCI）件数		195件	190件	163件				-	-		
	アブレーション治療件数		42件	105件	115件				-	-		
	脳血管造影件数		130件	129件	102件				-	-		
	血管内治療件数		34件	50件	57件				-	-		
血栓溶解療法（t-PA）治療件数		6件	10件	9件				-	-			

	手術件数(手術室)		3,403 件	3,366 件	3,318 件				-	-		
	うち全身麻酔手術件数		1,635 件	1,693 件	1,829 件				-	-		
	うち腹腔鏡下・胸腔鏡下手術(1 ポリペクは除く)		141 件	418 件	462 件				-	-		
	内視鏡による手術件数(ESD *2 ESD:内視鏡的粘膜下層剥離術)		89 件	80 件	91 件				-	-		
がん診療 連携パス 実績	胃がん		-	2	2				-	-		
	大腸がん		-	12	8				-	-		
	乳がん		-	33	37				-	-		
	肺がん		-	0	0				-	-		
	肝がん		-	0	0				-	-		
	前立腺がん		-	0	0				-	-		
	合計		-	47	47				-	-		
がん医療 の関連指 標	全がん退院患者数		1,657 人	1,560 人	1,702 人				-	-		
	うち5大がん退院患者数		651 人	628 人	764 人				-	-		
	がん患者外来化学療法患者数		1,479 人	1,858 人	2,393 人				-	-		
	がん放射線治療実患者数		246 人	255 人	285 人				-	-		
	がん患者相談件数		1,340 件	1,343 件	1,096 件				-	-		
	全国がん登録件数		892 件	930 件	923 件				-	-		
	がん診療連携パス適用数		44 件	47 件	47 件				-	-		
	がん研修会等開催数(医療者)		11 回 (562 人)	12 回 (580 人)	12 回 (548 人)				-	-		
	がん講演会等開催数(市民対		6 回	18 回	18 回				-	-		

	象)		(175人)	(288人)	(254人)								
地域医療 連携の関 連指標	紹介率	65%	71.9%	75.2%	75.4%				-	-			
	逆紹介率	40%	59.6%	70.1%	80.9%				-	-			
	地域連携バス 適用数(大腿骨 頸部骨折)		算定実績66件	算定実績3件 バス発行件数 110件	バス発行件数 249件				-	-			
	地域連携バス 適用数(脳卒 中)		算定実績98件	算定実績88件 バス発行件数 276件	バス発行件数 554件				-	-			
開放病床 利用率(5 床)	在院患者数		-	2,834人	2,591人				-	-			
	開放病床利用 率		-	155.3%	142.0%				-	-			
疾病予防 対策の関 連指標	特定健診件数		1,612件	2,761件	2,575件				-	-			
	特定保健指導 件数		182件	372件	402件				-	-			
	がん検診件数		1,947件	770件	681件				-	-			
	人間ドック件 数		2,011件	4,396件	4,693件				-	-			
	健康診断件数		1,836件	3,202件	3,343件				-	-			
在宅医療 の関連指 標	退院調整実施 件数		2,051件	1,597件	1,944件				-	-			
	訪問看護指示 書件数		90件	126件	240件				-	-			
	介護保険主治 医意見書件数		635件	624件	623件				-	-			
	在宅療養支援 診療所への紹 介件数		549件	678件	627件				-	-			
市民への 情報提供 の関連指 標	広報誌への医 療情報掲載数		4回	3回	2回				-	-			
	ホームページ への掲載数		4回	3回	3回				-	-			
	新聞への医療 関連広告数		22件	28件	25回				-	-			
	医学雑誌配布		1回	1回	1回				-	-			

	回数												
	講演会開催数		2回	1回	6回					-	-		
専門性及び医療技術の向上の関連指標	初期研修医数		22人	24人	20人					-	-		
	後期研修医数		21人	14人	14人					-	-		
	派遣研修人数(県内)		5人	初:10人 後:2人	初:9人 後:2人					-	-		
	派遣研修人数(県外)		19人	初:3人 後:0人	初:4人 後:0人					-	-		
	学会発表数(医師)		92件	124件	107件					-	-		
	学会発表数(看護師)		33件	24件	12件					-	-		
	学会発表数(その他メディカルスタッフ)		23件	31件	33件					-	-		
	論文発表数(全体)		20件	41件	44件					-	-		
	専門資格取得者数(新規)		15人	2人	6人					-	-		
医療安全・院内感染対策の関連指標	医療安全対策委員会等開催数		12回	12回	12回					-	-		
	医療安全研修等実施回数		6	4回	4回					-	-		
	インシデントレポート報告件数		1,083件	1,113件	1,187件					-	-		
	アクシデントレポート報告件数		32	36件	31件					-	-		
	院内感染対策委員会等開催数		12回	12回	12回					-	-		
	感染管理チームラウンド回数		51回	95回	56回					-	-		
	院内感染対策研修会等開催数		8回 (913人)	15回 (755人)	9回 (580人)					-	-		

患者中心 の医療の 実践の関 連指標	セカンドオピ ニオン件数(院 外から当院へ)		23件	26件	13件					-	-		
	セカンドオピ ニオン件数(当 院から院外へ)		47件	45件	24件					-	-		
医療の標 準化と最 適な医療 の提供の 関連指標	クリニカルパ ス適用患者数		3,589人	3,874人	3,658人					-	-		
	クリニカルパ ス種類数		112(累計)	143(累計)	148(累計)					-	-		
コンプラ イアンス の関連指 標	研修会開催数	1回	1回	1回	2回					-	-		
	参加者数	200人	107人	228人	269人					-	-		

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価																																																										
中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価			市長による評価																																																				
			業務実績		自己評価																																																					
2 診療機能の充実 (1) 高度医療の充実 高度医療の充実 地域の中核的急性期病院として、優秀な医療スタッフの確保に努め、高度医療の充実を図ること。																																																										
(4)	2 診療機能の充実 (1) 高度医療の充実	2 同左 (1) 同左	評価の視点 (29年度の具体的な取り組み) 内視鏡検査を強化して、早期がんの内視鏡的治療法であるESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)等の内視鏡治療を増加する。	主要な業務実績 内視鏡検査強化の結果、上部ESD46件/年、下部ESD45件/年、合計91件。前年度実績80件より11件増加し、目標値(60件)を31件上回る結果であった。 (高度医療の関連指標)		評価： (評価委員会からの意見) 高度医療の充実を図るため、医師看護師の確保を継続した結果スタッフが増員した。引き続き高度医療を支える人材の確保に努めていただきたい。																																																				
	高度医療の充実 地域の中核的急性期病院として、優秀な医療スタッフの確保に努めるとともに、がん治療やその他の高度医療を充実するため、医師等の増員とスキルアップを図る。	同左		<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT件数</td> <td>15,243件</td> <td>16,527件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>MRI件数</td> <td>6,301件</td> <td>6,510件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>RI件数</td> <td>842件</td> <td>873件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>心臓カテーテル検査件数</td> <td>409件</td> <td>391件</td> <td>増加させる</td> </tr> <tr> <td>経皮的冠動脈形成術(PCI)件数</td> <td>190件</td> <td>163件</td> <td>増加させる</td> </tr> <tr> <td>アブレーション治療件数</td> <td>105件</td> <td>115件</td> <td>増加させる</td> </tr> <tr> <td>脳血管造影件数</td> <td>129件</td> <td>102件</td> <td>90件</td> </tr> <tr> <td>血管内治療件数</td> <td>50件</td> <td>57件</td> <td>15件</td> </tr> <tr> <td>血栓溶解療法(t-PA)治療件数</td> <td>10件</td> <td>9件</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>手術件数(手術室)</td> <td>3,366件</td> <td>3,318件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>うち全身麻酔手術件数</td> <td>1,693件</td> <td>1,829件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>うち腹腔鏡下・胸腔鏡下手術</td> <td>418件</td> <td>462件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>内視鏡による手術件数(ESD*)</td> <td>80件</td> <td>91件</td> <td>60件</td> </tr> </tbody> </table>	指標名		平成28年度実績	平成29年度実績	平成29年度目標	CT件数	15,243件	16,527件	前年度並みを維持する	MRI件数	6,301件	6,510件	前年度並みを維持する	RI件数	842件	873件	前年度並みを維持する	心臓カテーテル検査件数	409件	391件	増加させる	経皮的冠動脈形成術(PCI)件数	190件	163件	増加させる	アブレーション治療件数	105件	115件	増加させる	脳血管造影件数	129件	102件	90件	血管内治療件数	50件	57件	15件	血栓溶解療法(t-PA)治療件数	10件	9件	3件	手術件数(手術室)	3,366件	3,318件	前年度並みを維持する	うち全身麻酔手術件数	1,693件	1,829件	前年度並みを維持する	うち腹腔鏡下・胸腔鏡下手術	418件	462件	前年度並みを維持する	内視鏡による手術件数(ESD*)
指標名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成29年度目標																																																							
CT件数	15,243件	16,527件	前年度並みを維持する																																																							
MRI件数	6,301件	6,510件	前年度並みを維持する																																																							
RI件数	842件	873件	前年度並みを維持する																																																							
心臓カテーテル検査件数	409件	391件	増加させる																																																							
経皮的冠動脈形成術(PCI)件数	190件	163件	増加させる																																																							
アブレーション治療件数	105件	115件	増加させる																																																							
脳血管造影件数	129件	102件	90件																																																							
血管内治療件数	50件	57件	15件																																																							
血栓溶解療法(t-PA)治療件数	10件	9件	3件																																																							
手術件数(手術室)	3,366件	3,318件	前年度並みを維持する																																																							
うち全身麻酔手術件数	1,693件	1,829件	前年度並みを維持する																																																							
うち腹腔鏡下・胸腔鏡下手術	418件	462件	前年度並みを維持する																																																							
内視鏡による手術件数(ESD*)	80件	91件	60件																																																							
				ウェイト 2 評価																																																						

*ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術

医療機器等の計画的な更新・整備 市立病院に求められる医療を提供できるよう、必要な医療機器等を計画的に更新・整備をすること。						
(5)	医療機器等の計画的な更新・整備 中期計画の期間における資金計画を策定し、計画的に次の医療機器等の更新・整備を進める。 ア CT イ MRI ウ 放射線治療装置	同左	(29年度の具体的な取り組み) ・CT、MRI、放射線治療器の更新の検討を行う。 ・健診システムの更新の検討を行う。 ・人事・給与・勤怠システムの更新の検討を行う。	・MRIの次年度早期更新に向け、円滑な発注を行う為機種選定に取り組んだ。 ・健診システムの更新に向けて、平成30年1月より導入作業を開始した。 ・人事システム、勤怠システムの更新を検討していたが、次期財務システム更新時期に合わせて更新することで費用削減となる事より今年度は更新せず、検討継続とする。	ウイ 1 評価	評価：
(2)地域がん診療連携拠点病院として、がん医療の水準向上に努め、患者や家族からの相談支援の充実を図るとともに、地域住民にがんに関する情報を提供し、その普及・啓発に努め、がん診療体制の強化を図ること。						
(6)	(2)がん医療体制の強化 地域がん診療連携拠点病院としての機能の充実 ア 沖縄県がん診療連携拠点病院との連携を強化し、がん診療連携パスの利用を促進する。	(2) 同左 同左 ア 沖縄県がん診療連携拠点病院との連携を強化し、がん診療連携パスの利用を促進する。また、外来化学療法及び		平成29年度の5大がんと前立腺がんのがん診療連携パスの適応件数は47件であった。化学療法の実施人数は2,393人で前年度より535人増加、放射線治療の実施人数は285人で前年度より30人増加した。 がん医療の関連指標について、前年度の実績を概ね維持することができた。外来化学療法の件数は、前年度に引き続き増加傾向にある。	ウイ 2 評価	評価： (評価委員会からの意見) 評価 が妥当である。 外来化学療法及び放射線治療の患者数が大幅に増加した事で、働きながらがん治療に専念できる人が増えたことは大いに評価できる。

		放射線治療等のさらなる充実を図る。					
	イ	がん医療の水準向上のため、がん診療に従事する医師等に対する研修会を開催する。	イ	同左	がん診療に従事する医療者向け研修会を年 12 回開催した。医療従事者の参加者総数 548 名であった。 主な研修内容は、医師向け緩和ケア研修会、リンパ浮腫講習会、化学療法とその副作用研修会、口腔ケア研修会、放射線治療の副作用研修など		
	ウ	全国がん登録を推進する。	ウ	同左	がん登録の専従職員を中心に登録内容のダブルチェックを行い入院及び外来症例の登録を行った。全国がん登録へ報告を行った。今年度の新規がん登録件数は 923 件であった。 がん登録実務に関わる知識・技術の向上を目的に、院内がん登録実務中級認定者研修へ職員 3 名を派遣した。		
	エ	他の医療機関と連携し、緩和ケアの充実を図る。	エ	同左	がん看護専門看護師を中心に、県内のホスピス、緩和ケア病棟、がん診療に携わる医師、研修医を対象に緩和ケア研修会を、平成 29 年 4 月(76 人参加)と 9 月(44 人参加)に開催した。		
(7)		がんに関する情報の市民への普及・啓発 地域住民に対し、がんフォーラム等の講演会を		同左	市民を対象とした、がんフォーラム等の講演会を年 18 回開催し、参加者は 254 人であった。 がんフォーラム第 1 回 参加者 16 人、第 2 回 70 人 乳がん塾第 1 回 26 人、第 2 回 13 人、第 3 回 16 人など	㌾㌺ 1 評価	評価：

継続して開催する。

(平成 29 年度がん診療連携パス実績)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
胃がん	4	5	2	2
大腸がん	5	8	12	8
乳がん	50	32	33	37
肺がん	0	0	0	0
肝がん	1	0	0	0
前立腺がん	0	1	0	0
合 計	60	46	47	47

(がん医療の関連指標)

指標名	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 29 年度目標
全がん退院患者数	1,560 人	1,702 人	前年度並みを維持する
うち 5 大がん退院患者数	628 人	764 人	前年度並みを維持する
がん患者外来化学療法患者数	1,858 人	2,393 人	前年度並みを維持する
がん放射線治療実患者数	255 人	285 人	前年度並みを維持する
がん患者相談件数	1,343 件	1,096 件	前年度並みを維持する
全国がん登録件数	930 件	923 件	前年度並みを維持する
がん地域連携パス適用数	50 件	47 件	前年度並みを維持する
がん研修会等開催数 (医療者)	12 回 (580 人)	12 回 (548 人)	前年度並みを維持する
がん講演会等開催数 (市民対象)	18 回 (288 人)	18 回 (254 人)	前年度並みを維持する

(3)地域医療機関との連携の推進・強化

地域医療支援病院として地域で完結する切れ目のない医療を提供するため、地域の医療機関との更なる連携を推進・強化すること。

	(3)地域医療機関との連携推進・強化 地域医療支援病院として地域で完結する切れ目のない医療を提供するため、次のように地域の医療機関との連携を強化する。	(3) 同左				
(8)	地域医療支援病院運営委員会を定期的に開催する。	同左		地域医療支援病院運営委員会を年2回開催した。 第1回 平成29年7月20日 第2回 平成29年11月9日	ウエ 1 評価	評価:
(9)	地域連携交流会と登録医総会を年1回開催する。	同左		平成29年度第9回地域連携交流会を開催した。 開催日:平成29年9月14日 参加者:院外:156名、院内:101名 合計:257名 平成29年度第7回那覇市立病院登録医総会を開催した。 開催日:平成29年9月14日 参加者:登録医27名 当院消化器内科医師による「抗血栓薬と内視鏡治療」、呼吸器内科医師による「重症喘息患者に対する治療法『気管支サーモプラスティ』」と題して特別講演をおこなった。	ウエ 1 評価	評価:

<p>(10)</p>	<p>地域医療支援病院として地域完結型医療を目指し、地域での役割分担、機能分化をより一層推進する。</p>	<p>同左</p>		<p>紹介率向上への取り組みとして、地域医療連携交流会や他医療機関への広報実施をおこなった。逆紹介に対する医師の意識も年々向上しており、紹介率及び逆紹介率の向上につながっている。目標値（紹介率 65%、逆紹介率 40%）対前年度ともに上回る結果であった。</p> <p>かかりつけ医が利用できる開放病床 5 床を確保しており、当院医師と共同で治療できる体制を整備している。開放病床利用率は 142.0%であった。</p> <p>(地域医療連携の関連指標)</p> <table border="1" data-bbox="790 483 1568 719"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> <th>平成 29 年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>75.2%</td> <td>75.4%</td> <td>65%以上</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>70.1%</td> <td>80.9%</td> <td>40%以上</td> </tr> <tr> <td>開放病床利用率</td> <td>155.3%</td> <td>142.0%</td> <td>50%以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>紹介率及び逆紹介率の目標値は、地域支援病院の承認要件数値である。</p>	指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標	紹介率	75.2%	75.4%	65%以上	逆紹介率	70.1%	80.9%	40%以上	開放病床利用率	155.3%	142.0%	50%以上	<p>㊦ 評価 2</p>	<p>評価： (評価委員会からの意見) 紹介率及び逆紹介率が向上する等、地域の医療機関との連携が更に定着していることは評価できる。引き続き連携促進に努められたい。</p>
指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標																			
紹介率	75.2%	75.4%	65%以上																			
逆紹介率	70.1%	80.9%	40%以上																			
開放病床利用率	155.3%	142.0%	50%以上																			
<p>(11)</p>	<p>地域連携パスの利用を促進する。</p>	<p>同左</p>		<p>平成 28 年度診療報酬改定に伴い、地域連携診療計画管理料等が診療報酬点数表より削除された。平成 29 年度は連携パスの実績は以下のとおりであった。地域連携の点から退院後の治療計画、検査結果、画像診断に係る画像情報、その他必要な情報について診療情報提供書への退院時診療状況添付による算定とし地域の連携医療機関へ紹介をおこなった。</p> <p>(地域医療連携の関連指標)</p> <table border="1" data-bbox="790 1153 1568 1401"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> <th>平成 29 年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域連携パス適用数 (大腿骨頸部骨折)</td> <td>算定実績 3 件 パス発行件数 104 件</td> <td>パス発行件数 115 件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>地域連携パス適用数 (脳卒中)</td> <td>算定実績 88 件 パス発行件数 262 件</td> <td>パス発行件数 256 件</td> <td>60 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>*平成 28 年度実績について、地域連携診療計画管理料の診療報酬算定件数を報告とした</p>	指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標	地域連携パス適用数 (大腿骨頸部骨折)	算定実績 3 件 パス発行件数 104 件	パス発行件数 115 件	前年度並みを維持する	地域連携パス適用数 (脳卒中)	算定実績 88 件 パス発行件数 262 件	パス発行件数 256 件	60 件	<p>㊦ 評価 2</p>	<p>評価：</p>				
指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標																			
地域連携パス適用数 (大腿骨頸部骨折)	算定実績 3 件 パス発行件数 104 件	パス発行件数 115 件	前年度並みを維持する																			
地域連携パス適用数 (脳卒中)	算定実績 88 件 パス発行件数 262 件	パス発行件数 256 件	60 件																			

			<p>が、平成 28 年度診療報酬改定に伴い、診療報酬点数表より地域連携診療計画管理料が削除された。平成 29 年度は診療情報提供書への退院時診療状況添付による算定としたため、地域連携診療計画管理料等の算定件数はなかった。退院時診療状況添付に地域連携バスも含めており、平成 29 年度は地域連携バスの発行件数を実績報告とした。比較資料として、平成 28 年度の地域連携バス発行件数を記す。</p> <p>【参考】平成 28 年度 大腿骨近位部骨折地域バス 104 件 おきなわ脳卒中連携バス計画書 262 件</p>		
--	--	--	--	--	--

(4)市の施策との連携等
保健・福祉行政との連携
市民の健康増進を図るため、市や関係機関と連携・協力して特定健診等の各種健康診断を実施し、疾病予防対策等に協力すること。

(12)	(4)市施策との連携等 保健・福祉行政との連携 市民の健康増進を図るため、市等の関係機関と連携・協力して特定健診等の各種健診を実施する。また、近年増加の一途を辿っている慢性腎臓病(CKD)の早期発見、血液人工透析への移行を防止する対策として、患者・市民・社会・医療従事者への情報提供を積極的に行う。	(4)市の施策との連携等 同左	(29年度の具体的な取り組み) ・慢性腎臓病(CKD)に対するフォローアップを強化する。 ・医師会や保健所と協力してCKDの啓蒙活動を継続して行う。 ・CKD サポート外来の推進や患者教育のための教育入院を検討する。 ・休日健診を今年度も継続して行う。	<p>慢性腎臓病(以下、CKD)に対する情報提供について、那覇地区医師会と連携し、開業医を対象に勉強会を主催しCKDの啓蒙活動を実施した。また、講演会、研究会などをおし当院がCKDを積極的に診療していることを情報提供している。</p> <p>那覇市をはじめ、市町村、全国健康保険協会、市町村共済組合等と連携し、各種健診を実施した。特定健診について、那覇市と連携し1~3月に3日間の土日健診を実施した。</p> <p>また、健診センターにおいて、当院の医師、認定看護師、理学療法士等を講師とし健診受診者向けミニ講座を開催した。</p>	ウイ 1 評価	評価：																		
				<p>(疾病予防対策の関連指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> <th>平成 29 年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特定健診件数</td> <td>2,761 件</td> <td>2,575 件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>特定保健指導件数</td> <td>372 件</td> <td>402 件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>がん検診件数</td> <td>770 件</td> <td>681 件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>人間ドック件数</td> <td>4,396 件</td> <td>4,693 件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>健康診断件数</td> <td>3,202 件</td> <td>3,343 件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> </tbody> </table>			指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標	特定健診件数	2,761 件	2,575 件	前年度並みを維持する	特定保健指導件数	372 件	402 件	前年度並みを維持する	がん検診件数	770 件	681 件	前年度並みを維持する	人間ドック件数	4,396 件
指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標																					
特定健診件数	2,761 件	2,575 件	前年度並みを維持する																					
特定保健指導件数	372 件	402 件	前年度並みを維持する																					
がん検診件数	770 件	681 件	前年度並みを維持する																					
人間ドック件数	4,396 件	4,693 件	前年度並みを維持する																					
健康診断件数	3,202 件	3,343 件	前年度並みを維持する																					

在宅医療への支援及び在宅医療との連携強化 本市において構築を予定している地域包括ケアシステムに、市立病院の機能に応じて協力すること。																									
(13)	在宅医療への支援及び在宅医療との連携強化 本市において構築を予定している地域包括ケアシステムに、市立病院の機能に応じて協力すること。	同左 那覇市が構築予定の地域包括ケアシステムに、市立病院の機能に応じて協力する。在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、介護施設、ケアマネジャー、社会福祉士等を支援し、連携を強化する。入院患者がスムーズに在宅医療へ移行できるよう退院支援の強化、適切な情報提供、急変時の受入体制の強化等を行い那覇市の地域包括ケアシステムに協力する。	退院調整実施件数は、増加させる年度目標を掲げ取り組んだ結果、347 件の増加であった。 地域包括ケアシステムに関連し、第7次なは高齢者プラン策定に、保健総務課と連携し作業部会、検討委員会へ参加した。 (在宅医療の関連指標)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> <th>平成 29 年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整実施件数</td> <td>1,597 件</td> <td>1,944 件</td> <td>増加させる</td> </tr> <tr> <td>訪問看護指示書件数</td> <td>126 件</td> <td>240 件</td> <td>増加させる</td> </tr> <tr> <td>介護保険主治医意見書件数</td> <td>624 件</td> <td>623 件</td> <td>増加させる</td> </tr> <tr> <td>在宅療養支援診療所への紹介件数</td> <td>678 件</td> <td>627 件</td> <td>増加させる</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標	退院調整実施件数	1,597 件	1,944 件	増加させる	訪問看護指示書件数	126 件	240 件	増加させる	介護保険主治医意見書件数	624 件	623 件	増加させる	在宅療養支援診療所への紹介件数	678 件	627 件	増加させる	評価： 1 評価
指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標																						
退院調整実施件数	1,597 件	1,944 件	増加させる																						
訪問看護指示書件数	126 件	240 件	増加させる																						
介護保険主治医意見書件数	624 件	623 件	増加させる																						
在宅療養支援診療所への紹介件数	678 件	627 件	増加させる																						
市民への情報の提供・発信 市民に対してホームページやマスコミ等を活用した医療情報の提供など、保健医療情報の発信及び普及啓発を推進するとともに、病院の診療機能・運営状況の発信の充実に努めること。																									

(14)	<p>市民への情報の提供・発信</p> <p>ア 市民に対してホームページやマスコミ等を活用し、医療情報を提供する。</p> <p>イ 医療講演会を開催する。</p>	<p>同左</p> <p>ア 同左</p> <p>イ 同左</p>		<p>ホームページにて、患者サロン、健康教室、乳がん塾等の開催日時、テーマや講師について市民へ向け情報提供を行った。また、診療にかかわる情報（休診情報や診療制限等）についても提供している。病院情報（当院における患者数上位3疾患や、5大がんの患者数等）をDPCデータに基づき掲載している。</p> <p>毎年実施している出前講座を当院の看護師（感染管理認定看護師）を講師とし実施した。</p> <p>平成29年11月17日 演題「インフルエンザの予防と対策」 開催場所：那覇市首里儀保町公民館 参加者数：13名（男性3名、女性10名）</p> <p>がんフォーラム</p> <p>第1回 平成29年12月16日 テーマ「肺がんの予防と最新治療について」参加者16人</p> <p>第2回 平成30年2月10日 テーマ「がんと就労～はじめていますか、がん就労支援～」参加者70人</p> <p>乳がん塾</p> <p>第1回 平成29年8月12日 テーマ「いま、ここ、ありのままに生きる。～がん患者・家族のためのマインドフルネスと緩和ケアの知恵～」参加者26人</p> <p>第2回 平成29年11月25日 テーマ「アピアランスケアについて」参加者13人</p> <p>第3回 平成30年02月17日 テーマ「すぐに役立つ、乳がん予防と健康美人を作るライフスタイル講座」参加者16人</p> <p>（市民への情報提供の関連指標）</p>	<p>加付 1 評価</p>	<p>評価：</p>
------	---	-----------------------------------	--	--	------------------------	------------

				指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標		
				広報誌への医療情報掲載数	3 回	2 回	4 回		
				ホームページへの掲載数	3 回	3 回	4 回		
				新聞への医療関連広告数	28 件	25 件	22 件		
				医学雑誌配布回数	1 回	1 回	1 回		
				講演会開催数	1 回	6 回	5 回		

(5)専門性及び医療技術の向上
医療スタッフの研修等を充実し、専門性及び医療技術の向上を図ること。

(15)	(5)専門性及び医療技術の向上 琉球大学と連携して、初期臨床研修医及び後期研修医の教育研修の充実に努め、また、初期臨床研修医、後期研修医に対し、県内外の先進的な医療機関への派遣研修を実施する。	(5) 同左 同左		<p>H28 年度派遣・研修実績</p> <p>(初期研修医在籍数 平成 28 年度:24 名、平成 29 年度:20 名)</p> <p>(後期研修医在籍数 平成 28 年度:14 名、平成 29 年度:14 名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">平成 28 年度</th> <th colspan="2">平成 29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">初期研修医</td> <td colspan="2">24 名</td> <td colspan="2">20 名</td> </tr> <tr> <td>うち県外派遣</td> <td>うち県内派遣</td> <td>うち県外派遣</td> <td>うち県内派遣</td> </tr> <tr> <td>3 名</td> <td>10 名</td> <td>4 名</td> <td>9 名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">後期研修医</td> <td colspan="2">14 名</td> <td colspan="2">14 名</td> </tr> <tr> <td>うち県外派遣</td> <td>うち県内派遣</td> <td>うち県外派遣</td> <td>うち県内派遣</td> </tr> <tr> <td>0 名</td> <td>2 名</td> <td>0 名</td> <td>2 名</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成 29 年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期研修医数</td> <td>20 人以上</td> </tr> <tr> <td>後期研修医数</td> <td>12 人以上</td> </tr> <tr> <td>派遣研修人数(県内)</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>派遣研修人数(県外)</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> </tbody> </table>		平成 28 年度		平成 29 年度		初期研修医	24 名		20 名		うち県外派遣	うち県内派遣	うち県外派遣	うち県内派遣	3 名	10 名	4 名	9 名	後期研修医	14 名		14 名		うち県外派遣	うち県内派遣	うち県外派遣	うち県内派遣	0 名	2 名	0 名	2 名	指標名	平成 29 年度目標	初期研修医数	20 人以上	後期研修医数	12 人以上	派遣研修人数(県内)	前年度並みを維持する	派遣研修人数(県外)	前年度並みを維持する	<p>ウエト 1 評価</p>	<p>評価:</p>
	平成 28 年度		平成 29 年度																																												
初期研修医	24 名		20 名																																												
	うち県外派遣	うち県内派遣	うち県外派遣	うち県内派遣																																											
	3 名	10 名	4 名	9 名																																											
後期研修医	14 名		14 名																																												
	うち県外派遣	うち県内派遣	うち県外派遣	うち県内派遣																																											
	0 名	2 名	0 名	2 名																																											
指標名	平成 29 年度目標																																														
初期研修医数	20 人以上																																														
後期研修医数	12 人以上																																														
派遣研修人数(県内)	前年度並みを維持する																																														
派遣研修人数(県外)	前年度並みを維持する																																														

(16)	学会参加、学会発表を推進する。	同左	<p>医療スタッフの職務能力の高度化および専門性向上の為に学会に参加し論文発表を積極的に行う。平成 29 年度の実績は、学会発表医師 107 件、看護師 12 件、コメディカル 33 件、論文発表 44 件であった。</p> <table border="1" data-bbox="797 288 1570 528"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> <th>平成 29 年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学会発表数（医師）</td> <td>124 件</td> <td>107 件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>学会発表数（看護師）</td> <td>24 件</td> <td>19 件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>学会発表数（その他メディカルスタッフ）</td> <td>31 件</td> <td>33 件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> <tr> <td>論文発表数（全体）</td> <td>41 件</td> <td>44 件</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標	学会発表数（医師）	124 件	107 件	前年度並みを維持する	学会発表数（看護師）	24 件	19 件	前年度並みを維持する	学会発表数（その他メディカルスタッフ）	31 件	33 件	前年度並みを維持する	論文発表数（全体）	41 件	44 件	前年度並みを維持する	㊦ 1 評価	評価：				
指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標																										
学会発表数（医師）	124 件	107 件	前年度並みを維持する																										
学会発表数（看護師）	24 件	19 件	前年度並みを維持する																										
学会発表数（その他メディカルスタッフ）	31 件	33 件	前年度並みを維持する																										
論文発表数（全体）	41 件	44 件	前年度並みを維持する																										
(17)	看護職の専門性の向上のため、認定看護師及び専門看護師等の資格取得を支援する。	同左	<p>新規で資格を取得した看護師が 6 名誕生した。内訳はがん看護専門看護師 1 名、皮膚・排泄ケア認定看護師 2 名、がん放射線療法看護認定看護師 1 名、摂食・嚥下障害看護認定看護師 1 名、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 1 名となっている。</p> <p>現在までに「専門看護師 2 名」「認定看護師 19 名」の計 21 名が当院で勤務している。</p> <p>（専門・認定看護師）</p> <table border="1" data-bbox="792 967 1529 1123"> <thead> <tr> <th>専門看護分野</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん看護</td> <td>1 名</td> <td>2 名</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1 名</td> <td>2 名</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="792 1171 1529 1449"> <thead> <tr> <th>認定看護分野</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集中ケア</td> <td>5 名</td> <td>5 名</td> </tr> <tr> <td>感染管理</td> <td>3 名</td> <td>3 名</td> </tr> <tr> <td>慢性心不全看護</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>皮膚・排泄ケア</td> <td>2 名</td> <td>4 名</td> </tr> </tbody> </table>	専門看護分野	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	がん看護	1 名	2 名	合 計	1 名	2 名	認定看護分野	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	集中ケア	5 名	5 名	感染管理	3 名	3 名	慢性心不全看護	1 名	1 名	皮膚・排泄ケア	2 名	4 名	㊦ 1 評価	評価：
専門看護分野	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績																											
がん看護	1 名	2 名																											
合 計	1 名	2 名																											
認定看護分野	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績																											
集中ケア	5 名	5 名																											
感染管理	3 名	3 名																											
慢性心不全看護	1 名	1 名																											
皮膚・排泄ケア	2 名	4 名																											

(18)	その他のメディカルスタッフについても、各部門で専門性に応じた研修等を実施し、認定及び専門の資格取得を支援する。	同左	<table border="1"> <tr> <td>小児救急看護</td> <td>1名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>がん化学療法</td> <td>1名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>がん放射線療法看護</td> <td>-</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>摂食・嚥下障害看護</td> <td>-</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>脳卒中リハビリテーション看護</td> <td>-</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>糖尿病看護</td> <td>1名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>14名</td> <td>19名</td> </tr> </table>	小児救急看護	1名	1名	がん化学療法	1名	1名	がん放射線療法看護	-	1名	摂食・嚥下障害看護	-	1名	脳卒中リハビリテーション看護	-	1名	糖尿病看護	1名	1名	合計	14名	19名	<p>各部門で専門性に応じた研修等を実施し、認定及び専門の資格取得を支援することができた。平成29年度各部門の資格取得、研修実績は以下のとおりであった。</p> <p>*研修参加人数は累計</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤部</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資格取得</td> <td>感染制御認定薬剤師1名 がん薬物療法認定薬剤師1名</td> <td>漢方薬・生薬認定薬剤師2名</td> </tr> <tr> <td>研修：参加</td> <td>26件：34名</td> <td>23件：35名</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>放射線室</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資格取得</td> <td>電磁共鳴専門技術者1名 Ai認定診療放射線技師1名</td> <td>健診マンモ認定試験1名 放射線治療専門放射線技師認定試験1名</td> </tr> <tr> <td>研修：参加</td> <td>8件：24名</td> <td>9件：30名</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ME室</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資格取得</td> <td>呼吸療法認定士1名</td> <td>心血管インターンシップ技師資格1名</td> </tr> <tr> <td>研修：参加</td> <td>10件：10名</td> <td>8件：8名</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤部	平成28年度実績	平成29年度実績	資格取得	感染制御認定薬剤師1名 がん薬物療法認定薬剤師1名	漢方薬・生薬認定薬剤師2名	研修：参加	26件：34名	23件：35名	放射線室	平成28年度実績	平成29年度実績	資格取得	電磁共鳴専門技術者1名 Ai認定診療放射線技師1名	健診マンモ認定試験1名 放射線治療専門放射線技師認定試験1名	研修：参加	8件：24名	9件：30名	ME室	平成28年度実績	平成29年度実績	資格取得	呼吸療法認定士1名	心血管インターンシップ技師資格1名	研修：参加	10件：10名	8件：8名	<p>ウイ 1 評価</p> <p>評価：</p>
			小児救急看護	1名	1名																																																
			がん化学療法	1名	1名																																																
			がん放射線療法看護	-	1名																																																
			摂食・嚥下障害看護	-	1名																																																
			脳卒中リハビリテーション看護	-	1名																																																
			糖尿病看護	1名	1名																																																
			合計	14名	19名																																																
			薬剤部	平成28年度実績	平成29年度実績																																																
			資格取得	感染制御認定薬剤師1名 がん薬物療法認定薬剤師1名	漢方薬・生薬認定薬剤師2名																																																
研修：参加	26件：34名	23件：35名																																																			
放射線室	平成28年度実績	平成29年度実績																																																			
資格取得	電磁共鳴専門技術者1名 Ai認定診療放射線技師1名	健診マンモ認定試験1名 放射線治療専門放射線技師認定試験1名																																																			
研修：参加	8件：24名	9件：30名																																																			
ME室	平成28年度実績	平成29年度実績																																																			
資格取得	呼吸療法認定士1名	心血管インターンシップ技師資格1名																																																			
研修：参加	10件：10名	8件：8名																																																			

				<table border="1"> <tr> <th>栄養室</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> </tr> <tr> <td>資格取得</td> <td>日本病態栄養学会認定病態 栄養認定管理栄養士 1 名 日本栄養士会認定認定管理 栄養士 (臨床栄養) 1 名</td> <td>日本病態栄養学会認定病態 栄養認定管理栄養士 1 名 日本病態栄養学会認定がん 病態栄養専門管理栄養士 1 名</td> </tr> <tr> <td>研修：参加</td> <td>38 件：110 名</td> <td>30 件：116 名</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>リハビリテーション室</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> </tr> <tr> <td>研修：参加</td> <td>3 件 (2 件は月 1 回、1 件は隔月 1 回)：645 名</td> <td>38 件：685 名</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>検査室</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> </tr> <tr> <td>資格取得</td> <td>病理検査認定技師 1 名 超音波検査士 (循環器領域) 1 名</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>研修：参加</td> <td>61 件：226 名</td> <td>92 件：221 名</td> </tr> </table>	栄養室	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	資格取得	日本病態栄養学会認定病態 栄養認定管理栄養士 1 名 日本栄養士会認定認定管理 栄養士 (臨床栄養) 1 名	日本病態栄養学会認定病態 栄養認定管理栄養士 1 名 日本病態栄養学会認定がん 病態栄養専門管理栄養士 1 名	研修：参加	38 件：110 名	30 件：116 名	リハビリテーション室	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	研修：参加	3 件 (2 件は月 1 回、1 件は隔月 1 回)：645 名	38 件：685 名	検査室	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	資格取得	病理検査認定技師 1 名 超音波検査士 (循環器領域) 1 名	-	研修：参加	61 件：226 名	92 件：221 名	
栄養室	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績																											
資格取得	日本病態栄養学会認定病態 栄養認定管理栄養士 1 名 日本栄養士会認定認定管理 栄養士 (臨床栄養) 1 名	日本病態栄養学会認定病態 栄養認定管理栄養士 1 名 日本病態栄養学会認定がん 病態栄養専門管理栄養士 1 名																											
研修：参加	38 件：110 名	30 件：116 名																											
リハビリテーション室	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績																											
研修：参加	3 件 (2 件は月 1 回、1 件は隔月 1 回)：645 名	38 件：685 名																											
検査室	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績																											
資格取得	病理検査認定技師 1 名 超音波検査士 (循環器領域) 1 名	-																											
研修：参加	61 件：226 名	92 件：221 名																											

(6) 安心・安全で質の高い医療の提供

医療安全対策の徹底

安心・安全で良質な医療を提供するため、院内の感染症対策及び医療事故防止対策を徹底し、医療安全の確保を図ること。

(19)	(6) 安心・安全で質の高い医療の提供 医療安全対策の徹底 安心・安全で良質な医療を提供するため、院内感染症対策及び医療事故防止対策を徹底する。	(6) 同左 同左	<p>安心・安全で良質な医療を提供するため、院内感染防止対策委員会を開催し、院内感染対策の充実を図った。また、他施設との合同カンファレンスや相互チェック及び病棟ラウンドを強化し、院内感染対策を徹底した。</p> <p>感染防止対策委員会の開催については毎月実施しており、下部組織である ICT・リンクナース合同会議も同様に実施している。過去 3 年間、手指衛生の遵守率 UP に取り組み、遵守率は 40%へと若干上昇したが、3 年目の昨年の遵守率は大きな上昇がなく、継続した手指衛生順守に向けた対策の継続が必要と考える。</p> <p>他施設との連携では、感染防止対策加算 - 連携を一昨年の 1 施設から 3 施設へと連携施設を増やし、合同カンファレンスも施設基準の 4 回/年をクリアして、相互の感染対策の向上につながった。また、連携施設へ出向いての研修会</p>	<p>ワイト 2 評価</p>	<p>評価： (評価委員会からの意見) 医療安全対策の取組み及び改善策が図られている。今後も安心・安全で質の高い医療の提供に努められたい。</p>
------	--	------------------	--	-------------------------	---

も開催し、地域との連携強化となった。

医療安全対策委員会を定期的に開催し、インシデント・アクシデントに関する情報の収集・分析に努め、院内ラウンドを実施する等、医療事故防止対策を徹底した。

医療安全対策委員会は毎月開催し、当院でのインシデント・アクシデントの内容などを精査した。インシデント・アクシデントは、報告システム(Safe Master)を利用して収集しており、件数は昨年より増加している。今後は報告件数の総数だけでなく、レベル別の報告件数にも着目し、0レベルの報告件数が増加するように取り組む必要がある。

院内での転倒転落発生率は全国平均 2.64‰に対して 1.6‰と低く、今後も現状を維持するように取り組む。今後は薬剤部と連携し、院内での薬剤関連マニュアルや手順などが遵守されているか院内ラウンドで確認を行い、手順などの徹底を行う。

(医療安全・院内感染対策の関連指標)

指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標
医療安全対策委員会等開催数	12 回	12 回	12 回
医療安全研修等実施回数	4 回	4 回	6 回
インシデントレポート報告件数	1,113 件	1,187 件	-
アクシデントレポート報告件数	36 件	31 件	-
院内感染対策委員会等開催数	12 回	12 回	12 回
感染管理チームラウンド回数	95 回	56 回	50 回
院内感染対策研修会等開催数	15 回 (755 人)	9 回 (580 人)	8 回(1,000 人)

患者中心の医療の実践

患者が自ら受ける医療の内容に納得し、自分に合った治療法を選択できるようにすること。

(20)	<p>患者中心の医療の実践</p> <p>患者の信頼と納得に基づいた医療を実践する。</p>	<p>同左</p> <p>患者の信頼と納得に基づいた医療を実践する。セカンドオピニオン体制の維持</p>		<p>当院のホームページにセカンドオピニオン外来の案内を掲載している。セカンドオピニオンとはなにか、対象者・対象疾患についての説明、予約受付方法、問い合わせ先、相談料金等の情報提供をおこなっている。</p> <p>(患者中心の医療の実践の関連指標)</p> <table border="1" data-bbox="790 288 1570 576"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> <th>平成 29 年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セカンドオピニオン件数 (院外から当院へ)</td> <td>26 件</td> <td>13 件</td> <td>現状を維持する</td> </tr> <tr> <td>セカンドオピニオン件数 (当院から院外へ)</td> <td>45 件</td> <td>24 件</td> <td>現状を維持する</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標	セカンドオピニオン件数 (院外から当院へ)	26 件	13 件	現状を維持する	セカンドオピニオン件数 (当院から院外へ)	45 件	24 件	現状を維持する	<p>㊦1 評価</p>	<p>評価：</p>
指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標															
セカンドオピニオン件数 (院外から当院へ)	26 件	13 件	現状を維持する															
セカンドオピニオン件数 (当院から院外へ)	45 件	24 件	現状を維持する															

科学的な根拠に基づく医療の推進質の高い医療を提供するため、科学的な根拠に基づく医療（EBM）を推進すること。
 医療の標準化と最適な医療の提供効果的な医療を提供できるよう、クリニカルパス(疾患別に退院までの治療内容を標準化した計画表のこと。)の活用を図ること。

(21)	<p>「科学的根拠に基づく医療（EBM）」及び「医療の標準化と最適な医療」の提供</p> <p>科学的根拠に基づく医療(EBM)と最適な医療を同時に提供できるよう、診療ガイドライン等を参考にしたクリニカルパス(疾患別に退院までの治療内容を標準化した計画表)を作</p>	<p>同左</p>		<p>クリニカルパス適用患者数は、眼科医不在に伴う患者減による影響もあり前年度を 216 件下回る結果であった。(平成 28 年度眼科 パス適用率 94.4%、入院患者数 180 人、パス適用件数 170 件であった。)診療ガイドライン等を参考にクリニカルパスを作成し種類数は 5 件増加する結果であった。</p> <p>(医療の標準化と最適な医療の提供の関連指標)</p> <table border="1" data-bbox="790 935 1570 1118"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> <th>平成 29 年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス適用患者数</td> <td>3,874 人</td> <td>3,658 人</td> <td>増加させる</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス種類数</td> <td>143 (累計)</td> <td>148 (累計)</td> <td>前年度並みを維持する</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標	クリニカルパス適用患者数	3,874 人	3,658 人	増加させる	クリニカルパス種類数	143 (累計)	148 (累計)	前年度並みを維持する	<p>㊦1 評価</p>	<p>評価：</p>
指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標															
クリニカルパス適用患者数	3,874 人	3,658 人	増加させる															
クリニカルパス種類数	143 (累計)	148 (累計)	前年度並みを維持する															

	成し、活用を図る。																	
法令・行動規範の遵守(コンプライアンス) 市民から信頼される病院となるため、医療法や個人情報保護、情報公開などの法令等を遵守すること。																		
(22)	法令・行動規範の遵守(コンプライアンス) 医療法や個人情報保護、情報公開などの法令等を順守するため、研修会を実施する。 病院機能評価の更新平成30年度に病院機能評価の更新を受審し、医療機能の一層の充実・向上を目指す。	同左 同左		<p>全職員を対象に院内研修会「改正個人情報保護法とリスクマネジメント」をテーマに外部講師を招き実施した。</p> <p>・開催日：平成29年8月17日 参加者：196名 主任以上の職員を対象に「ハラスメント対策・マタハラ、セクハラ及びパワハラ等に対する正しい理解を得る」をテーマに外部講師を招き実施した。</p> <p>・開催日：平成29年6月8日 参加者：73名 目標の研修会開催回数1回、参加者数200人を達成することができた。</p> <p>(コンプライアンスの関連指標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修会開催数</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>228人</td> <td>269人</td> <td>200人</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成29年度目標	研修会開催数	1回	2回	1回	参加者数	228人	269人	200人	ウ1 1 評価	評価：
指標名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成29年度目標															
研修会開催数	1回	2回	1回															
参加者数	228人	269人	200人															

4. その他参考情報

1. 当項目に関する情報			
1-3	患者サービスの向上		
業務に関連する政策・施策	<p>(1) 診療待ち時間の改善等 診療待ち時間の改善等</p> <p>(2) 患者・来院者のアメニティの向上 患者・来院者に、より快適な環境を提供するため、施設の改修・補修等を実施する。 患者・家族等に憩いの場を提供するため、院内緑化を推進する。 患者のプライバシー確保に配慮した院内環境整備に努める。 患者・家族等の健康に配慮し、敷地内禁煙を継続する。</p> <p>(3) 受診者の利便性向上 引き続き受診者の利便性の向上に取り組む</p> <p>(4) ボランティアとの協働によるサービス向上 ボランティアが活動しやすい環境をつくり、ボランティアとの協働を推進する。また、意見交換を積極的に行い、ボランティア活動の拡大に努める。</p> <p>(5) 職員の接遇向上 患者や来院者に選ばれる病院、患者や来院者が満足する病院であり続けるため、全職員が参加する接遇研修等により、職員の接遇向上に努める。</p>	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	-
当該項目の重要度、難易度	ウエイト付けは各項に記載	関連する政策評価・行政事業レビュー	-

2. 主要な経年データ													
主要なアウトプット（アウトカム）情報								主要なインプット情報					
	指標	達成 目標	（参考） 中期計画 平成26 年度実績	28年度	29年度	30年度	31年度		指標	28年度	29年度	30年度	31年度
患者サ ービスの向 上の関連 指標	入院患者満足 度調査（満足＋ やや満足）%		94.0%	97.3%	96.2%					-	-		
	外来患者満足 度調査（満足＋ やや満足）%		94.7%	95.9%	94.2%					-	-		
	外来診療待時 間調査（満足＋ やや満足）%		78.6%	66.6%	65.0%					-	-		
	施設設備に対 する苦情件数		29件	21件	38件					-	-		
	ボランティア 登録人数		19人	18人	15人					-	-		
	ボランティア 活動時間		1,794時間	1,199時間	696.35時間					-	-		
	職員の接遇に 対する苦情件 数		46件	41件	42件					-	-		

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価														
中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価			市長による評価								
			業務実績		自己評価									
3 患者サービスの向上 (1)診療待ち時間の改善等 患者サービス向上の観点から、待ち時間対策などに取り組むこと。														
(23) 3 患者サービスの向上 (1)診療待ち時間の改善等 地域医療機関との役割分担など地域連携を推進し、待ち時間短縮に努める。	3 同左 (1) 同左	評価の視点	<p>主要な業務実績</p> <p>地域医療支援病院として、外来で状態の落ち着いた患者や、入院で急性期治療を終えた患者を開業医の先生方や回復期病棟を持つ医療機関などへ逆紹介を推進した。一方、紹介患者の数も年々増加傾向にある。外来での精密な検査等が必要な患者もあり、診療や検査等を効率的におこない待ち時間の短縮に努める必要がある。</p> <p>平成 29 年 12 月実施 外来診療待ち時間調査「満足度調査」結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>66.6%</td> <td>65.0%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>33.4%</td> <td>35.0%</td> </tr> </tbody> </table>		平成 28 年度	平成 29 年度	満足	66.6%	65.0%	不満	33.4%	35.0%	ウヱト 1 評価	評価：
	平成 28 年度	平成 29 年度												
満足	66.6%	65.0%												
不満	33.4%	35.0%												
(2)患者・来院者のアメニティの向上 患者や来院者に、より快適な環境を提供するため、施設の改修・補修を実施するとともに、プライバシーの確保に配慮した院内環境の整備に努めること。														
(24) (2)患者・来院者のアメニティの向上 患者・来院者に、より快適な環境を提供するため、施設の改修・補修等を実施する。	(2) 同左 同左	(29年度の具体的な取り組み) ・外壁落下防止のための点検・補修工事を行う。 ・エレベーターリニューアル	<p>外壁回りの点検及び修繕を行った。</p> <p>平成 30 年 1 月 6 日～31 日にかけて北館エレベーターの改修工事を行った。</p> <p>平成 29 年 7 月～9 月にかけて、個別での温度管理ができない空調設備をビルマルチタイプ(個別調整が可能なタイプ)の空調へ取り替えを行った。</p>	ウヱト 1 評価	評価：									

			<p>工事を行う。</p> <p>・空調設備の更新、個別クーラーの設置を検討する。</p>			
(25)	患者・家族等に憩いの場を提供するため、院内緑化を推進する。	同左		<p>患者や家族の利用のある3階屋上庭園において、園芸ボランティアに協力して頂き季節に応じた草花の植え替え、プランターを設置し庭園緑化の推進を継続した。外来駐車場周囲の緑化に取り組み、花壇の整備を行った。患者や利用者から、「きれいになった」と好評を得た。</p>	<p>ウエイト 1 評価</p>	<p>評価：</p>
(26)	患者のプライバシー確保に配慮した院内環境整備に努める。	同左		<p>入院準備センターに患者や家族のプライバシーに配慮できるよう、平成29年12月にロールスクリーンを設置した。</p>	<p>ウエイト 1 評価</p>	<p>評価：</p>
(27)	患者・家族等の健康に配慮し、敷地内禁煙を継続する。	同左		<p>敷地内禁煙を啓蒙する案内板の設置を継続しておこない、警備員による敷地内喫煙の見回りも引き続き実施した。</p>	<p>ウエイト 1 評価</p>	<p>評価：</p>
<p>(3)受診者の利便性向上 受診者の利便性の向上に取り組むこと。</p>						
(28)	(3)受診者の利便性向上 引き続き受診者の利便性の向上に取り組む。	(3) 同左		<p>通訳クラウドサービスを急病センターと総合案内で使用中心であったが、外来診察室や病室での利用要望が多く、平成29年12月からWi-Fiが全病棟、全外来で使えるよう整備した。iPadも2台増設して4台体制となった。</p>	<p>ウエイト 1 評価</p>	<p>評価： 近年増加している外国人旅行者の受診に対応するため、通訳クラウドサービスの使用環境を整備したことは、大いに評価できる。</p>

(4) ボランティアとの協働によるサービス向上 ボランティア活動がしやすい環境をつくり、ボランティアとの協働を推進すること。						
(29)	(4) ボランティアとの協働によるサービス向上 ボランティアが活動しやすい環境をつくり、ボランティアとの協働を推進する。また、意見交換を積極的に行い、ボランティア活動の拡大に努める。	(4) 同左		ボランティア室を本館地下1階に整備(平日:8:00~17:00開放)。活動しやすい環境を整えている。担当職員とボランティアとの意見交換会(会議)を開催。主な活動内容として3階庭園の緑化推進 小児科病棟で紙芝居読み聞かせ 七夕やクリスマスの時期にあわせた院内コンサートの開催	ウイ 1 評価	評価:
(5) 職員の接遇向上 患者や来院者に選ばれる病院、患者や来院者が満足する病院であり続けるため、職員の接遇向上に努めること。						
(30)	(5) 職員の接遇向上 患者や来院者に選ばれる病院、患者や来院者が満足する病院であり続けるため、全職員が参加する接遇研修等により、職員の接遇向上に努める。	(5) 同左		全職員対象の接遇研修をおこなった。外部講師を招き「アンガーマネジメントから学ぶイライラと上手につきあう習慣術」について研修をおこない、参加者は220人であった。	ウイ 1 評価	評価:
4. その他参考情報						

様式1-1-4-4 年度評価 項目別評定調書（業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置）

1. 当項目に関する情報			
2-1	業務運営の改善及び効率化に関する事項		
業務に関連する政策・施策	(1) 事務スタッフの専門性の向上 研修及び先進施設の視察派遣等による人材育成を強化する。 学会参加、学会発表を推進し、専門資格取得を支援する。 (2) 予算執行の弾力化と費用節減	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	-
当該項目の重要度、難易度	ウエイト付けは各項に記載	関連する政策評価・行政事業レビュー	-

2. 主要な経年データ													
	主要なアウトプット（アウトカム）情報							主要なインプット情報					
	指標	達成目標	(参考) 中期計画 平成26年度実績	28年度	29年度	30年度	31年度		指標	28年度	29年度	30年度	31年度
事務スタッフの専門性の向上の関連指標	病院経営研修等への派遣回数(合計)	-	-	64回	69回					-	-		
	事務職員勉強会等	-	-	0回	12回					-	-		
	外部講師による講演指導等	-	-	8回	8回					-	-		
	オンラインセミナー	-	-	2回	5回					-	-		
	専門資格取得者数(新規)	4人	4人	5人	2人					-	-		
後発医薬品使用率の目標	後発医薬品使用率	77.4%	77.4%	91.6%	92.0%					-	-		

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価						
中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価			市長による評価
			業務実績	自己評価		
中期目標 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 地方独立行政法人制度の特長を十分に活かして、自律性・透明性の高い病院運営を行うとともに、さらなる改善を図り業務、執行体制の効率化に努めること。						
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 地方独立行政法人制度の特長を十分に活かして、自律性・透明性の高い病院運営を行うとともに、さらなる改善を図り業務執行体制の効率化に努める。 また中期目標、中期計画及び年度計画に掲げる組織目標の着実な達成に向けて部門ごとの事業計画を作成し、効率的な病院運営に努める。	第2 同左		-	-	-	-

1 事務スタッフの専門性の向上 事務部門においては、病院経営の専門的知識や経営感覚に優れた人材を育成し、組織として経営の専門性を高めること。						
	1 事務スタッフの専門性の向上 事務部門においては、病院経営の専門的知識等に優れた人材を育成し、組織として経営の専門性を高める。また急激な医療環境の変化に対応できるよう病院改革に強い意識と知識を持ち、経営感覚に富む人材の配置を外部人材の登用含めて計画的に検討する。	1 同左	評価の視点	主要な業務実績		
(31)	(1) 研修及び先進施設の視察派遣等による人材育成を強化する。	(1) 同左		<p>研修等派遣回数69回</p> <p>医療情報学連合大会4名参加、病院経営戦略セミナー2名参加、院内がん登録実務中級認定者研修受講3名参加、病院事務職員スキルアップセミナー3名参加等。先進施設への視察派遣等は、9施設へ4名派遣。佐賀県医療センター好生館、長崎みなとメディカルセンター市民病院、鹿児島市民病院、広島市立安佐市民病院、岡山市立市民病院等。</p> <p>また、事務局では、自己研鑽を目的に各課グループ長を講師に勉強会を開催した。自発的に診療情報管理士の資格取得に取り組む職員に対し人材育成の一環として支援をおこなう体制を整えた。</p> <p>(事務スタッフの専門性の向上の関連指標)</p>	<p>ウエト</p> <p>1 評価</p>	<p>評価： (評価委員会からの意見)</p> <p>事務局の積極的な取り組みが、地方独立行政法人制度の特徴を活かした人材育成の体制整備に繋がったと評価できる。</p>

(32)	(2)学会参加、学会発表を推進し、専門資格取得を支援する。	(2) 同左		指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	㊄ 1 評価	評価：	
				病院経営研修等への派遣回数(合計)	64 回	69 回			
				事務職員勉強会等	0 回	11 回			
				外部講師による講演指導等	8 回	8 回			
				オンラインセミナー等	2 回	5 回			
				専門資格取得者数(新規)	5 人	2 人			
				日本診療情報管理学会学術大会参加・発表 1 名 医療事務講座メディカルクラーク(医科)資格取得 2 名					
2 予算執行の弾力化と費用節減 法人の会計制度を活用した弾力的な予算執行を行い効率的・効果的な事業運営に努めるとともに、費用の節減等を図ること。									
(33)	2 予算執行の弾力化と費用節減 (1)法人の会計制度を活用した弾力的な予算執行を行い効率的・効果的な事業運営に努める。	2 同左 (1) 同左		余剰金約 2 億円を、現在運用中である保険積立金に追加加入(5 年間年利 0.224%)を行い、病院建替を想定し運用することとした。			㊄ 1 評価	評価：	
(34)	(2)適正な後発医薬品の採用促進により患者の負担軽減と法人の費用節減に努める。	(2) 同左		後発医薬品の採用促進により、平成29年度は、後発医薬品使用率(数量ベース)92.0%で目標後発医薬品使用率70%以上を達成した。 (経費節減の指標) 後発医薬品使用率の目標(数量ベース)			㊄ 1 評価	評価： 後発医薬品使用率(数量)の目標を大きく上回ったことは大いに評価できる。	
				指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績			平成 29 年度目標
				後発医薬品使用率	91.6%	92.0%	70%以上		

(35)	(3)薬品、診療材料等の購入価格の低減及び適正な在庫管理を行い、費用節減に努める。	(3) 同左	<p>・保険材料の適正請求及び適正支払について 患者に手渡される診療明細書に記載される保険材料、特に診療材料の医事算定と診療材料の使用状況照合の徹底を行った。過誤請求及び過剰請求、算定漏れ防止を目的として医事課・各臨床現場と連携し“漏れなく正しい”レセプト請求の一助として通年業務として取り組んだ。</p> <p>・適正な在庫管理について 毎月1回、各部署へ診療材料の払い出し実績・長期在庫を含めたデータを提供し、現場の適正定数把握のサポートを行った。</p>	㊦ 1 評価	評価：
(36)	(4) その他費用の適正化に努める。	(4) 同左	<p>前年度と同様に3億円の固定資産購入費を計上していたが、29年度より経営陣を含め、医療の安全・質を確保することを基本に機器の必要度、優先度を経営的判断で精査選別を行い購入することとした。選別結果を院内ホームページに掲載し購入予定機器として周知を行った。予定機器以外（修理不能など）の機器購入に備え価格交渉を徹底的に行った。</p>	㊦ 1 評価	評価：

4. その他参考情報

様式 1 - 1 - 4 - 5 年度評価 項目別評価調書（財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置）

1. 当項目に関する情報			
3 - 1	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置		
業務に関連する政策・施策	<p>(1) 経営機能の強化 診療報酬の改定や患者の動向などの情報を迅速に収集・分析し、必要に応じて対応策を立案、的確な対応を行う。 経常収支比率と医業収支比率について数値目標を設定する。</p> <p>(2) 収益的収支の向上 病床利用率の向上や適正な診療報酬の確保に努め、引き続き収益を確保する。</p>	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	-
当該項目の重要度、難易度	ウエイト付けは各項に記載	関連する政策評価・行政事業レビュー	-

2. 主要な経年データ													
	主要なアウトプット（アウトカム）情報							主要なインプット情報					
	指標	達成目標	（参考） 中期計画 平成26 年度実績	28年度	29年度	30年度	31年度		指標	28年度	29年度	30年度	31年度
収支改善 の指標	経常収支比率（％）	99.8%	100.6%	100.1%	101.5%				経常収益（千円）	12,981,099	13,565,577		
	医業収支比率（％）	98.6%	100.4%	98.9%	100.3%				経常費用（千円）	12,970,218	13,370,494		
収入確保 の指標	病床稼働率	90.0%	89.8%	89.9%	89.1%				経常利益（千円）	10,881	195,084		
	入院診療単価	58,994 円	55,088 円	57,388 円	59,446 円								
	外来診療単価	17,446 円	15,869 円	16,646 円	18,146 円								

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価																					
中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価			市長による評価															
			業務実績		自己評価																
中期目標 第3 財務内容の改善に関する事項																					
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	第3 同左	-	-	-	-	-															
1 経営機能の強化 診療報酬の改定や患者の動向を見極め、迅速に情報の収集及び分析をしたうえで、対応策を立案し、的確な対応を行うこと。また、経常収支比率と医業収支比率について数値目標を設定し、経営の効率化を図ること。																					
(37) 1 経営機能の強化 診療報酬の改定や患者の動向などの情報を迅速に収集・分析し、必要に応じて対応策を立案、的確な対応を行う。	1 同左 同左	評価の視点	主要な業務実績 病床稼働率については、実績が89.1%であった。入院診療単価と外来診療単価は診療報酬制度に適切に対応した結果、目標値を上回ることが出来た。その結果、総医業収益は前年度に比べ、約5.3億円のアップとなった。増収増益を計上する結果となり黒字へ転換した。今後さらに増収対策とコスト管理が必要である。 (収入確保の指標) <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> <th>平成29年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>89.9%</td> <td>89.1%</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>入院診療単価</td> <td>57,388円</td> <td>59,446円</td> <td>58,994円</td> </tr> <tr> <td>外来診療単価</td> <td>16,646円</td> <td>18,146円</td> <td>17,446円</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成29年度目標	病床稼働率	89.9%	89.1%	90.0%	入院診療単価	57,388円	59,446円	58,994円	外来診療単価	16,646円	18,146円	17,446円	ウエト 1 評価	評価： 診療単価が目標値を上回り、総医業収益が大幅に増加したことは大いに評価できる。今後も増収対策とコスト管理を図られたい。
指標名	平成28年度実績	平成29年度実績	平成29年度目標																		
病床稼働率	89.9%	89.1%	90.0%																		
入院診療単価	57,388円	59,446円	58,994円																		
外来診療単価	16,646円	18,146円	17,446円																		
(38) 経常収支比率と医業収支比率について数値目標を設定する。	同左		経常収支比率と医業収支比率について数値目標を設定した。達成状況は以下のとおりであった。 経常収支比率 対前年度比1.4%増 対目標値1.7%増 医業収支比率 対前年度比1.4%増 対目標値1.7%増 (収支改善の指標)	ウエト 2 評価	評価： (評価委員会からの意見) 地域病院との連携や収益向上のための人材確保等の総合的な取り組みの結果、収支が改善され、黒字転換したことは大いに評価できる。																

指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標
経常収支比率(%)	100.1%	101.5%	99.8%
医業収支比率(%)	98.9%	100.3%	98.6%

2 収益的収支の向上
病床利用率の向上や適正な診療収入の確保に努め、収益確保を図ること。

<p>(39) 2 収益的収支の向上 病床利用率の向上や適正な診療報酬の確保に努め、引き続き収益を確保する。</p> <p>(1) 救急指定病院として空床を確保するなど、適切な病床稼働率を維持する。</p>	<p>2 同左</p> <p>(1) 同左</p>	<p>病床稼働率は 89.1%であった。病床の確保は適切に実施できた。また、休日・夜間の入院病床確保について、急病センターからスムーズに入院病棟へ患者を受け入れる体制を維持できた。</p> <p>(収入確保の指標)</p> <table border="1" data-bbox="795 885 1568 1109"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>平成 28 年度実績</th> <th>平成 29 年度実績</th> <th>平成 29 年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>89.9%</td> <td>89.1%</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>【参考】 平均在院日数</td> <td>11.83 日</td> <td>11.16 日</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>病床稼働率の低下について</p> <p>病床稼働率の低下の要因のひとつとして平均在院日数短縮が挙げられる。病院の機能や疾病等患者構成により左右するが、概してそれは医療の効率性を示す指標といえる。適正な範囲でその短縮化を図ることは、患者の負担軽減や、国の医療費抑制につながる。それは短ければ良いという指標ではないが、適正にその短縮が図られている場合、それを可能にする質の高い医療サービスを提</p>	指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標	病床稼働率	89.9%	89.1%	90.0%	【参考】 平均在院日数	11.83 日	11.16 日		<p>ウエ 1 評価</p>	<p>評価:</p>
指標名	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 29 年度目標													
病床稼働率	89.9%	89.1%	90.0%													
【参考】 平均在院日数	11.83 日	11.16 日														

			<p>供している指標といえる。</p> <p>病床稼働率の算出は、「延べ入院患者数 / 運用病床数 × 日数」で算出される。前・今年度の延べ入院患者数は、平成 28 年度 154,280 人、平成 29 年度 152,864 人 (1,416 人減少) であった。(新入院患者、平成 28 年度 12,016 人、平成 29 年度 12,579 人 (563 人増加))</p> <p>病床稼働率の低下の要因は、分子となる延べ入院患者の減少がありその要因として平均在院日数の短縮が考えられる。</p> <p>重症度の高い患者と幅広い症例の受入、精緻で適切な DPC コーディングや効率的な入院医療が評価されたことにより機能評価係数は前年度に比較して「0.0016」ポイント増加した。(2016 年度 0.0673 2017 年度 0.0689) また全国ランキングでも DPC 病院 群 1442 病院中 308 位と上位を維持した。</p> <p>保険診療委員会を毎月開催し、査定減の内容分析、対応策を検討し関連部署へフィードバックを行った。コーディング委員会を年 4 回開催し、DPC コーディングの適正化に努めた。診療データ確認(入力)において、DPC 病名と内容不一致の場合には、主治医へ報告し主病名等の変更について相談し正確な DPC コーディングをすることにより増収を図った。各病棟担当者による、看護師及び医師への診療報酬に関する勉強会等の実施により、診療行為の取り漏れが減少している。診療報酬明細書のチェックを行う担当者を配置し、2重3重チェックを行うことにより診療報酬算定がより正確となり査定減に努めた。更に、レセプトチェック機能を使用し DPC と医事データの照合により返戻・査定の防止につながった。査定率は前年度と同様に 0.16%で目標の 0.2%を下回る結果であった。</p> <p>未収金の発生防止対策と早期回収に、以下の取り組みを引き続きおこなった。未収金台帳の作成・管理、電話督促、督促状の発送、訪問徴収、支払相談等を行い回収に努めた。また、入院オリエンテーション室に委託職員を常時配置し、入院予定患者の保険証、前回未収の有無確認や各種公費、高額療養費貸付制度、</p>	<p>ウエト 2 評価</p> <p>ウエト 2 評価</p>	<p>評価： (評価委員会からの意見) 引き続き低い査定率を維持していることは大いに評価できる。</p>
(40)	(2)DPC/PDPS の機能評価係数の内容を検討し係数を高めるための対策を行う。	(2) 同左	<p>重症度の高い患者と幅広い症例の受入、精緻で適切な DPC コーディングや効率的な入院医療が評価されたことにより機能評価係数は前年度に比較して「0.0016」ポイント増加した。(2016 年度 0.0673 2017 年度 0.0689) また全国ランキングでも DPC 病院 群 1442 病院中 308 位と上位を維持した。</p>	<p>ウエト 2 評価</p>	<p>評価： (評価委員会からの意見) 引き続き低い査定率を維持していることは大いに評価できる。</p>
(41)	(3)診療報酬の請求漏れや減点を防止するとともに、未収金の未然防止対策と早期回収に努める。	(3) 同左	<p>保険診療委員会を毎月開催し、査定減の内容分析、対応策を検討し関連部署へフィードバックを行った。コーディング委員会を年 4 回開催し、DPC コーディングの適正化に努めた。診療データ確認(入力)において、DPC 病名と内容不一致の場合には、主治医へ報告し主病名等の変更について相談し正確な DPC コーディングをすることにより増収を図った。各病棟担当者による、看護師及び医師への診療報酬に関する勉強会等の実施により、診療行為の取り漏れが減少している。診療報酬明細書のチェックを行う担当者を配置し、2重3重チェックを行うことにより診療報酬算定がより正確となり査定減に努めた。更に、レセプトチェック機能を使用し DPC と医事データの照合により返戻・査定の防止につながった。査定率は前年度と同様に 0.16%で目標の 0.2%を下回る結果であった。</p> <p>未収金の発生防止対策と早期回収に、以下の取り組みを引き続きおこなった。未収金台帳の作成・管理、電話督促、督促状の発送、訪問徴収、支払相談等を行い回収に努めた。また、入院オリエンテーション室に委託職員を常時配置し、入院予定患者の保険証、前回未収の有無確認や各種公費、高額療養費貸付制度、</p>	<p>ウエト 2 評価</p>	<p>評価： (評価委員会からの意見) 引き続き低い査定率を維持していることは大いに評価できる。</p>

			<p>出産育児一時金受取代理制度の利用やMSWの介入を積極的に働きかけ、未収金の発生防止に努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>査定率</td> <td>0.16%</td> <td>0.16%</td> </tr> <tr> <td>目標査定率</td> <td>0.2%以下</td> <td>0.2 以下%</td> </tr> </tbody> </table>		平成 28 年度	平成 29 年度	査定率	0.16%	0.16%	目標査定率	0.2%以下	0.2 以下%		
	平成 28 年度	平成 29 年度												
査定率	0.16%	0.16%												
目標査定率	0.2%以下	0.2 以下%												

4 . その他参考情報

様式1-1-4-6 年度評価 項目別評定調書（予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画）

1. 当項目に関する情報			
4	予算（人件費の見積りを含む）収支計画及び資金計画		
業務に関連する政策・施策	地方独立行政法人法の趣旨に沿って、市からの運営費負担金の確保を図り、起債を安定的に活用し、市の病院として公的使命を果たせる経営基盤を維持していく。 財務諸表及び決算報告書を参照	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	-
当該項目の重要度、難易度	-	関連する政策評価・行政事業レビュー	-

2. 主要な経年データ												
主要なアウトプット（アウトカム）情報								主要なインプット情報				
指標	達成目標	（参考） 中期計画 平成26 年度実績	28年度	29年度	30年度	31年度		指標	28年度	29年度	30年度	31年度
-	-	-	-	-	-	-			-	-	-	-

1. 当項目に関する情報			
5	短期借入金の限度額		
業務に関連する政策・施策	1 限度額 1,000 百万円 2 想定される短期借入金の発生理由 (1) 運営費負担金の受け入れ遅延等による資金不足の対応 (2) 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等偶発的な支出への対応	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	-
当該項目の重要度、難易度	-	関連する政策評価・行政事業レビュー	-

中期目標	中期計画	年度計画	実施状況
	1 限度額 1,000百万円 2 想定される短期借入金の発生理由 (1)運営費負担金の受け入れ遅延等による資金不足の対応 (2)予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等偶発的な出費への対応	1 限度額 1,000百万円 2 想定される短期借入金の発生理由 (1)運営費負担金の受け入れ遅延等による資金不足の対応 (2)予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等偶発的な支出への対応	平成 29 年度は年度計画で想定された短期借入金を要する資金不足の状況は発生せず、事業資金は建設改良費に使用した長期借入金等を除き自己資金で賄った。

様式 1 - 1 - 4 - 8 年度評価 項目別評定調書（重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画）

1. 当項目に関する情報			
6	重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画		
業務に関連する政策・施策	-	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	-
当該項目の重要度、難易度	-	関連する政策評価・行政事業レビュー	-

中期目標	中期計画	年度計画	実施状況
	なし	なし	該当なし

様式 1 - 1 - 4 - 9 年度評価 項目別評定調書（剰余金の使途）

1. 当項目に関する情報			
7	剰余金の使途		
業務に関連する政策・施策	決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる。	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	-
当該項目の重要度、難易度	-	関連する政策評価・行政事業レビュー	-

中期目標	中期計画	年度計画	実施状況
	決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる。	同左	平成 29 年度の中期計画に定める剰余金の使途については、平成 28 年度の当期純損失 8,156,192 円への充当を行うため、前中期目標期間繰越積立金 8,156,192 円を取り崩し処分した。

1. 当項目に関する情報			
8	料金に関する事項		
業務に関連する政策・施策	<p>1 診療料等</p> <p>病院において診療又は検査を受ける者から診療料を、病院の施設を利用する者から使用料を徴収する。</p> <p>(1) 診療料の額は、診療報酬の算定方法(平成 20 年厚生労働省告示第 59 号)及び入院時食事療養費に係る食事療養及び入院時生活療養費に係る生活療養費の費用の額の算定に関する基準(平成 18 年厚生労働省告示第 99 号)及び後期高齢者医療の食事療養標準負担額及び生活療養標準負担額(平成 19 年厚生労働省告示第 395 号)により算定した額とする。</p> <p>ただし、これにより難しい場合にあつては、理事長が別に定める額とする。</p> <p>(2) 使用料の額は、理事長が別に定める額とする。</p> <p>2 文書料</p> <p>病院において診断書、証明書等の交付を受ける者から 1 通につき、理事長が別に定める額の文書料を徴収する。</p> <p>3 徴収猶予等</p> <p>(1)理事長は、災害その他特別の理由により使用料又は文書料の納付が困難と認められる者に対しては、徴収を猶予し、又は分割して徴収することができる。</p> <p>(2)理事長は、使用料又は文書料の納付が著しく困難と認められる者に対しては、これを減免することができる。</p> <p>(3)理事長は、前号の場合において、詐欺その他不正行為により使用料又は文書料の減免を受けたと認めるときは、減免措置を取り消すことができる。</p> <p>(4)既納の使用料又は文書料は還付しない。ただし、理事長は特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。</p>	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	平成 20 年厚生労働省告示第 59 号 平成 18 年厚生労働省告示第 99 号 平成 19 年厚生労働省告示第 395 号
当該項目の重要度、難易度	-	関連する政策評価・行政事業レビュー	-

中 期 計 画	年 度 計 画	実 施 状 況
<p>1 診療料等 病院において診療又は検査を受ける者から診療料を、病院の施設を利用する者から使用料を徴収する。</p> <p>(1) 診療料の額は、診療報酬の算定方法(平成 20 年厚生労働省告示第 59 号)及び入院時食事療養費に係る食事療養及び入院時生活療養費に係る生活療養費の費用の額の算定に関する基準(平成 18 年厚生労働省告示第 99 号)及び後期高齢者医療の食事療養標準負担額及び生活療養標準負担額(平成 19 年厚生労働省告示第 395 号)により算定した額とする。ただし、これにより難しい場合にあっては、理事長が別に定める額とする。</p> <p>(2) 使用料の額は、理事長が別に定める額とする。</p> <p>2 文書料 病院において診断書、証明書等の交付を受ける者から 1 通につき、理事長が別に定める額の文書料を徴収する。</p> <p>3 徴収猶予等 (1)理事長は、災害その他特別の理由により使用料又は文書料の納付が困難と認められる者に対しては、徴収を猶予し、又は分割して徴収することができる。</p> <p>(2)理事長は、使用料又は文書料の納付が著しく困難と認められる者に対しては、これを減免することができる。</p> <p>(3)理事長は、前号の場合において、詐欺その他不正行為により使用料又は文書料の減免を受けたと認めるときは、減免措置を取り消すことができる。</p> <p>(4)既納の使用料又は文書料は還付しない。ただし、理事長は特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。</p>	<p>1 同左</p> <p>(1) 同左</p> <p>(2) 同左</p> <p>2 同左</p> <p>3 同左</p> <p>(1) 同左</p> <p>(2) 同左</p> <p>(3) 同左</p> <p>(4) 同左</p>	<p>診療報酬点数表を基に、診療報酬を算定し診療料を徴収した。</p> <p>使用料等の徴収については、地方独立行政法人那覇市立病院使用料等に関する規程「規程第 35 号」に定める額を徴収した。</p> <p>診断書、証明書、その他(介護保険主治医意見書、障害者自立支援法医師意見書等)について、地方独立行政法人那覇市立病院使用料等に関する規程「規程第 35 号」に定める額を徴収した。</p> <p>徴収猶予等について、地方独立行政法人那覇市立病院使用料等に関する規程「規程第 35 号」第 6 条 2 で使用料等の減免手続きについて規定している。</p>

1. 当項目に関する情報			
9	その他業務運営に関する重要事項		
業務に関連する政策・施策	1 病院建替について 病院建替に向け、地域医療構想の策定を踏まえ、必要に応じて病院建替基本構想・基本計画（案）の見直しを行う。	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	-
当該項目の重要度、難易度	-	関連する政策評価・行政事業レビュー	-

中期目標	中期計画	年度計画	実施状況
	<p>1 施設の災害対策について 病院施設の被災に的確に対応するため、災害対策マニュアルを検証する。また防災・防火訓練を定期的実施する。</p> <p>2 地域医療構想に関して 第3期中期計画については、期間中に県の地域医療構想の策定が予定されているため、必要に応じて速やかに中期計画を見直すこととする。</p> <p>3 病院建替について 病院建替についても地域医療構想の策定を踏まえ、必要に応じて病院建替基本構想・基本計画（案）の見直しを行うものとする。</p>	<p>1 病院建替について 病院建替に向け、地域医療構想の策定を踏まえ、必要に応じて病院建替基本構想・基本計画（案）の見直しを行う。</p>	<p>平成29年3月沖縄県策定の沖縄県地域医療構想は、今後の病院経営と病院建替にとって大きな意味を持つものであり、当該構想に沿うことが総務省からの地方交付金の交付要件である。当院においては、沖縄県地域医療構想の内容を踏まえた「新病院建設基本構想（案）」を策定し、平成30年2月1日付けで那覇市に提出した。</p>

1. 当項目に関する情報			
10	那覇市地方独立行政法人法の施行に関する規則(平成 20 年那覇市規則第 4 号)第 4 条で定める事項		
業務に関連する政策・施策	1 施設及び設備に関する計画 2 積立金の処分に関する計画 前期中期目標期間繰越積立金については、病院施設の整備又は医療機器の購入等に充てる。	当該事業実施に係る根拠（個別法条文など）	-
当該項目の重要度、難易度	-	関連する政策評価・行政事業レビュー	-

中期目標	中期計画	年度計画	実施状況																		
	施設及び設備に関する計画 （平成 28 年度～平成 31 年度）	施設及び設備に関する計画 （平成 29 年度）																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設及び設備の内容</th> <th>予定額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院施設、医療機器等整備</td> <td>総額1,200百万円</td> <td>那覇市長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table>	施設及び設備の内容	予定額	財源	病院施設、医療機器等整備	総額1,200百万円	那覇市長期借入金等	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設及び設備の内容</th> <th>予定額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機器等整備</td> <td>総額300百万円</td> <td>那覇市長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table>	施設及び設備の内容	予定額	財源	医療機器等整備	総額300百万円	那覇市長期借入金等	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設及び設備の内容</th> <th>決定額</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機器等整備</td> <td>総額約 200 百万円</td> <td>那覇市長期借入金等</td> </tr> </tbody> </table>	施設及び設備の内容	決定額	財源	医療機器等整備	総額約 200 百万円	那覇市長期借入金等
施設及び設備の内容	予定額	財源																			
病院施設、医療機器等整備	総額1,200百万円	那覇市長期借入金等																			
施設及び設備の内容	予定額	財源																			
医療機器等整備	総額300百万円	那覇市長期借入金等																			
施設及び設備の内容	決定額	財源																			
医療機器等整備	総額約 200 百万円	那覇市長期借入金等																			
	(注1) 金額については見込みである。 (注2) 各事業年度の那覇市長期借入金等の具体的な内容については、各事業年度の予算編成過程において決定される。																				

中期目標の期間を超える債務負担

1 移行前地方債償還債務

(単位：百万円)

年度項目	H28	H29	H30	H31	中期目標期間償還額	次期以降償還額	総債務償還額
移行前地方債償還債務	32	14	0	0	46	0	46

2 長期借入金

(単位：百万円)

年度項目	H28	H29	H30	H31	中期目標期間償還額	次期以降償還額	総債務償還額
長期借入金償還金	296	418	419	409	1,542	1,116	2,658

1 同左

2 同左

1 同左

2 長期借入金

(単位：百万円)

年度項目	H28	H29	H30	H31	中期目標期間償還額	次期以降償還額	総債務償還額
長期借入金償還金	296	418	384	409	1,507	1,151	2,658

	3 リース債				3 同左	3 同左
	(単位：百万円)					
	償還期間	中期目標期間事業費	次期以降事業費	総事業費		
医療機器等	平成 28 年度 ~ 平成 31 年度	8	0	8		